午前11時7分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、14番平田梯子議員の質問を許します。14番平田梯子議員。

（14番平田梯子君登壇）

○14番（平田梯子君） 皆様おはようございます。お忙しい中に傍聴ありがとうございます。けさラジオを聞いていましたら、科学ジャーナリストの小出五郎さんが、日本人は今、思考が停止している。行動停止でもあるし、成り行き任せになっているということをおっしゃっていました。そして、価値観に対する柔軟的な考え方が必要なときではないかということをおっしゃって、まさにそうだと思います。聞いておりました。

先日、川越市からサツマイモを送ってきました。開けてみたら、その中に「放射能の汚染はありません。セシウムの心配はありません。」という市長と生産者の名前を書いた紙が入っていました。お礼の電話をしますと、そちらのほうでは、そういう農産物に対する心配が騒がれているから、おばちゃん大丈夫よということをおっしゃっていましたが、本当にそれが外のことでなく、常にもう日本国中がそのことで心配しているということをつい私は忘れがちですが、その中で、やっぱり原子力、原発で生産された電気を利用している者として、常にもっと考えなくてはいけないなと思っています。

それから、行政視察に私どもは、新潟県の十日町市に行っていました。きのう問題になっていましたホームページの件ですが、私は質問項目に入れておりませんので、非常に一番感動しましたホームページが、この十日町市でありました。市町村合併をしまして、朝倉市よりも面積が広くて山間地にあるのですが、人口は朝倉市と同様なところなんです。そのホームページを見ていたら、どんどん中に深く入っていくし、幅も広いし、特に「大地の芸術祭」というのが3年に1回行われて、1週間ごとにイベントがあります。7月の終わりから9月まであって、合計37万人が移動するんだそうです。私どもは、東京のほうから行きました。もう山の中を歩いて非常に不便なところでしたが、このように、どうして人が集まるのか。やっぱりホームページの役目は大きいな。きょうは流入人口のことを質問いたしますけれども、本当に役目は大きいと思いました。

さらに、もう一つの催しとしては、関東の大学生が来て、まちづくりに対する意見交換会がある、イベントもやっていくということもPRされていました。もちろん大地の芸術祭の総括が、全部記録が載ってまして、入り込み客がこうであったとか、92集落が参加したということが書いてあって、市民の中でもその情報交換ができていたけれども、全国的にその動きが見えて、行ってみたいというホームページでございました。

私どもは、やっぱりよその情報も受け入れながらまちづくりを考えるということが大事であるということを感じました。きょうは、3点にわたって質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（14番平田梯子君降壇）

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 最初の質問は、朝倉市が誇るもの、特徴ある施策について問いますが、1番目、きのうも市長が、東京の福岡会館に行ってというお話もされましたし、行事一覧表を要求してるというお話もされました。私は、やっぱり市長は朝倉市にとって動く広告塔であると考えています。あちこちに行かれて、ごあいさつされるときに、どんな点を強調されて紹介されていますか。お話伺いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私、よそに行っていさつする機会は結構ございます。そのときはその時々話題もございすし、また必ず申し上げることは、朝倉市のいわゆる農産物のすばらしさ、あるいは原鶴温泉のこと、あるいは今取り組んでいる例えば百人一首の里、山田堰の話、秋月の新郷土館の話、そういったことを含めてさまざまなお話をさせていただいております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 私どもは、やっぱりよそに行きまして、ごあいさつの中でそういう特徴あるものを話いただきますと、行ってみたいな、そういう町かなということが一番全面に出されますので、どうぞよろしく願いいたしますが、2番目の質問でございます。そのことに関して、交流人口をふやすため、また農産品等を売るためのPR活動をどこで、どのように行っているのか。市の施策について、きょうは十分お尋ねしたいと思っておりますし、考えていただきたいなと思っております。

今回質問をいたしましたのは、今、交流人口がうきは市に流れていくのではないかとという不安、それよりも恐怖を感じています。具体的に申し上げますと、私たちの朝倉市は、福岡市、都市圏からは大分高速道路が通り、3つのインターがあります。高速バスの停留所も3カ所あります。福岡から日田へ通じる国道386号線も通り、福岡県で初めての道の駅原鶴もあります。うきは市よりもずっと条件がよく、うきは市はそのような条件の中、都市圏からの交流人口をどのようにしてふやすかを常に考えています。

杷木インターの高速道路上の看板は、「杷木、うきは」と同じような大きな文字で表示されています。以前、うきは市の県議が働きかけると聞いたことがあります。まさにそれが実現したなと思っております。

そして、386号線を利用して、朝倉インターまた恵蘇宿の橋のところには、おひなさまめぐりや小さな美術館の看板が、その時々立ちます。それから、杷木の昭和橋からうきはに通じるあの交差点には、彼岸花まつりそれからもみじまつりなどの大きな看板が立って、常にうきはへの道を案内しています。

うきは市は、森林セラピーをことし認定されました。先ほどあすばるに行きましたら、うきは市の公用車に森林セラピーの広告が出ていました。また、森林セラピーの職員の方は、それに担当した職員の方は、月の半分ぐらい営業に出ていると、回っていると本人か

ら聞きました。

うきは市は、もう非常に積極的に働きかけをしています。もう一つ、後ほどもお話をします道の駅うきは、私は、これはインフォメーションルームと思っていましたが、そこに行きましたら、うきは市の観光協会が入っています。うきは市のチラシなどは置いてありました。確かにそこは、私は道の駅のインフォメーションルームであるという、テレビが置いてございました。私はチャレンジ大学の広告を張っていただきたいと思って行きましたら、道の駅の事務所は物産館の奥のほうですと言われて、そこに行きました。事務所でした。

そのように、統一した観光業がなされていると思っています。山田のサービスエリアも、ちょっとうきはへねらわれていることも、副市長も御存知だと思いますが、どうかこれがないかという動きもあっています。

そんな中、私たちは、広域でうきはと朝倉にお客さんを回すことも大事だと思っています。しかし、朝倉市もPRをしなければお客さんは足を運びません。朝倉市観光協会のほとめく館は、電車やレールバスをおりた方たちが訪ねてみえることもあるそうですが、電話で問い合わせがあり、その中にうきは市の問い合わせもかなりあるという話をきのう聞いてまいりました。

私は、本当にこんな実情の中、もっとここで頑張らねばということで、きょうは質問させていただくんですが、多くのことを一度に質問をしますと焦点がぼけますので、今回は、私が外部から朝倉市を訪れるときにどうするか、どんな情報が欲しいかということで、1つ高速道路を利用して、2つ目は386号線を利用したとき、3つ目はJRの久大線を利用して、わかりやすい観光地選びや特産品案内が出ているかを中心に、質問をさせていただきます。

まず、高速道路について質問をします。

若者たち、家族連れ、そしてリタイアした人たちは、情報を自分で入手して車で移動します。パーキングエリアやサービスエリアに寄るとトイレに寄ったりしますが、そのときには、よくその地方の案内のチラシを手にとったりポスターを見て、その地方を知ろうとします。私もそうします。そこで、パーキングエリアやサービスエリアでのPRへの働きかけは、市としてはどのようにしていらっしゃるでしょうか、お尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 車で来られた方、高速道路を乗ってこられる方のサービスエリア等での情報発信という現状でございますけれども、市としまして看板を載せるとか、市としての動きの中ではしておりませんが、例えば三連水車の里がイベントをしたりとか、そういうようなイベント等があるときの拠点と、一つの位置づけとして情報発信を行っているという現状であろうと思っております。一般的にチラシを置くというようなことぐらいの対応でしかないというのが現状です。そういう現状です。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 私は、最初に山田インターに行ってみました。そうしたら、チラシが1枚もないんです。これは、朝倉市のチラシがないというだけではないんです。置いてないんですね。というのが、本当に厳しくなって、あそこはお金を取ってチラシを置くようになっている。指定管理者になっているということで、尋ねられたら教えますということで、売店の方がいらっしゃって、例えば朝倉市の道案内とか、ずっと地図をかいましてございますね。あんなのをコピーしたのしか持ってなかったんです。

で、その後、古賀パーキングエリアに行く用事がありました。上りでは、山口県の案内が置いてございました。萩市と津和野の案内と、もう一つ山口県のがありました。なるほど、九州から出るときは、古賀パーキングエリアに寄って本州の情報を得るからしかりだなと。それから古賀パーキングエリアの下りは、本州から九州への玄関口だと思いますから、九州の案内をすべきところだと思いますが、1枚もありませんでした。

さらに、基山インターの下り、ここは御存じのとおり分岐点です。大分、熊本、それから鹿児島、長崎・佐賀の分岐点です。で、福岡県のチラシはありませんでした。そして、温泉情報が8カ所あったんですが、これはよく聞かれるということで、8カ所の中に、武雄、黒川、嬉野、湯布院、平山、長湯、玉名、雲仙の温泉のチラシが置いてあって、インターチェンジからどれだけのところにありますよということが張ってあって、チラシもありました。

全くありませんでした。もちろん福岡県の温泉は、一つも選ばれておりませんでした。なぜ置いてないのかは、情報をつかんでいらっしゃいますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 置いてない理由については、把握しておりません。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 私もそれが不思議で、古賀パーキングエリアの上りのところで聞きましたら、連絡するところの電話番号まで教えてくださいました。先は、西日本高速道路サービスホールディングス株式会社に契約が必要ということでございました。1カ月の契約で、A4版で、15枚から1,500枚が限度だそうです、2万5,000円だそうです。ああ、本当にこんな世の中になったんだなと思いました。

それで私は、それが月だから、年間契約はもっと安くなりますか、広域ですればどうですかって言ったら、それは相談に応じて値引きもありますということでございました。もう私は、これは広域ですべきときだと思っています。

その中で私は、チラシがなく、福岡県の案内ないじゃありませんかって言ったら、担当のその華山さんという方が、そう少ないと自分も感じていますということで、やっぱりこちらの働きかけが必要であると思っています。これはもう行政的な動きでなければいけないと、私は思っています。

市長にぜひ動いていただきたいのですが、広域での取り組みをする働きかけ、筑紫地区、朝倉地区、うきは地区の首長に呼びかけられて、ホールディングスに交渉も行ってほしいし、ここにホールディングスが発行している、無料の冊子が道の駅などに置いてあるんですが、ここに紹介してあるのは、岡山、嵯峨野、安岐を御案内と書いてあるんですが、ここに秋月を御案内とか書いてもらえるような売り込みの働きかけ、これは首長のお力が一番強いと思っています。ぜひお願い、ホールディングスに1度、働きかけ、お話かけをしていただきたいと思いますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 働きかけをすることについては、当然やぶさかじゃございません。ただ、実態として、私も全然そういうことを把握してなかったんで、まず西日本高速道路ホールディングスですか、そこがどういう形でそういうものを置かせていただいているのか。これは有料だという話ですけれども、じゃ、行政がお願いして置かせていただいているのか、あるいはそれ違った、例えば観光協会ですとか、温泉組合ですとか、そういった形の中で置かせていただいているのか。そこらあたりも含めて十分事情を聞いた上で、こちらの行動はやらせていただきたいというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） もちろん各観光所、朝倉市内の原鶴温泉であれば原鶴など、秋月あるいは三連水車など、その土地に住む人たちが、一生懸命それにかかわって、お客様を迎える体制をつくって、知っていただく、お迎えする体制をつくるのが1番ではございますが、そののところを束ねてぜひ市長の働きかけをお願いしたいと思っています。

2点目に入ります。386号線を利用してお客さんが入ってくる場合、道の駅があります。道の駅の機能についてお尋ねします。どのように把握していらっしゃいますか。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（牟田芳高君） 道の駅2カ所ございます。道の駅の中にも、一定の観光のパンフレットも、こういったものについても用意はしておるということで、私は認識しております。

で、主となりますのは、それぞれの直売所の特徴と言いますですか、生製品のメニューと言いますですか、そういったものが主になるアピールをその旅行者、通行者の方々にやっておるというのが現状だというふうに認識をしております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 道の駅は、実は朝倉市には1つしかないんです。（発言する声あり）と申しますのは、私は近くにいるからよく存じ上げているんだと思っています。最初、日本でできたときには、秋田県の鷹巣町に行きましたときに、休憩室があって、日本一の太鼓が置いてあるところですが、24時間利用できるトイレ、それからインフォメーション、この3つですね。休憩施設と24時間利用できるトイレ、インフォメーションがあるところ、

これが道の駅で、福岡県の第1号が原鶴でした。

鷹巣町に行ったときに、そんなものがあつたかなと思っていたら、今私は、非常に必要であると感じています。よくぞあそこにできたなど。福岡から大分に行く、やっぱり途中には、1カ所、ほんとうに夜もあそこに泊まれて自由に使える。だから、2年ほど前に問題になったホームレスの方も自由に使えるというところでもあつたわけですね。本当に気を使わずに、自由に使える。トイレに行きたいとき行けるといふところだと思っています。

それで、よろしいでしょうか、1カ所の件は。

それでは、道の駅くるめ、道の駅うきは、これが近くにあるわけですね。朝倉市に入つてこられるお客さんが利用する。朝倉市としては、十分インフォメーションの部分でございしますが、利用していますでしょうか。そこに朝倉の情報を置いていますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） そこに、例えば道の駅ではございませんで、産直、直売所間の情報は、筑後地区は連携しておりますので、その情報は置いておると思いますが、朝倉市の観光情報等をそちらに置いておるかどうか、恐らく置いてないんじゃないかならうかというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 久留米の道の駅に1枚ありました。平塚川添遺跡の今度のクリスマスイベントのが1枚、ポスターがありました。でも、ちょうど杷木から見えた方にあつたんですが、日田とか行き来してる。久留米の道の駅に来ると、イベント情報がわかるからここに来るって、何枚も何枚もとってらっしゃつたんですね。

しかし、一方、原鶴の道の駅には、古川温泉の温泉の割引券まで置いていかれるという状況もあるわけです。だから、自由に利用できるんだから、もっともっと私は利用すべきだ。それを私は掌握していただきたいなと思っています。例えば観光地、朝倉市内のイベントを行うなら、ここに持っていったらどうか、ここにもあるよという紹介、意思統一、情報交換が必要ではないかということを感じました。

それでは、道の駅原鶴に行きます。道の駅原鶴に電光テロップができました。何に利用するのでしょうか。管理はどこですか。どこから情報を流しているのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） テロップは、平成22年度の事業ということで、古くなつた装置をつくりかえてテロップができるようになったということですが、テロップは、道路情報とか道路の緊急情報を流すためのシステムと。その道路情報関係を流すところは、県土整備事務所が機器なり情報の一括管理をしておると。テロップについては、その基本的な働きといいますか、機能がございします。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 我が今見る限り、一度も変わったことはないですね。「ここは道

の駅原鶴」です。毎日毎晩、24時間流れています。何だろうと思います。もったいないな
と思っています。公告をしていただくことはいいことですが、もうちょっと利用価値がな
いかなと思っています。

じゃ、2つ目です。2つのテレビがあります。1つはうちのテレビと同じような放送が
あっています。もう1つは道路情報ですが、これは何かエラーが出ていますとあって、ち
っとも動きません。本当は、久留米の道の駅にあったのは、あのテレビは壊れてました。
下に小さいパソコンがありました。うきはの道の駅は、そのパソコンを操作して、どこに
行くか下のパソコンで操作すると、大きな画面に道路情報が出ました。

原鶴の道の駅は、まだその役目はしてないと思われるのですが、やっぱり管理はどこな
んでしょうか。本当に、あそこがインフォメーションルームであれば、テレビの役目をど
のように考えていらっしゃいますか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） テレビが設置されたということですがけれども、中にあり
ますものは、先ほどおっしゃいますように、道路の情報等も流す必要があるということだ
すけれども、市の観光のDVDとか、そのほか観光情報のうち視覚効果が高いものといっ
たものを流せる環境を構築をしていきたいというふうには考えております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 私もDVDをつくられるボランティアの方がいらっしゃいますし、
歴史資料館に行ったら、朝倉の名勝がずっと流れています。それを流すのだらうと思っ
ていました。そしたら、テレビが地デジに変わりましたので、対応ができないということで、
前のそのDVDはもったいないけど使えないと。ところが、流す本体は、あそこにないわ
けですね。それから、操作するものがないわけですね。御存知でしょうか。だから、あの
テレビは何のためなのかっていうことをお尋ねしたいと思っています。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 情報発信のためということで、さまざまな情報を流す
ということのために設置されたテレビ装置だというふうには思っております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 九州の道の駅の協議会かなんかあって、昨年まで会長がうちの森
田市長であられたとお聞きしました。それで、この3つの道の駅を回りまして、先ほどの
休憩施設、24時間トイレ、インフォメーション、特にインフォメーションの部分につい
ては、私は機能していないと思いました。本当に税金を使って、車を利用する人のための道
の駅であるならば、ここは十分機能していると思っていますが、このことに関して、県へ
の申し入れはできないのでしょうか。市長、会長をされたということですので、
そのあたりをお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） まず、道の駅の管理の実態と実情と、現状ということでございますけれども、道の駅そのもの、本体につきましては、国交省の建物でございます。その維持管理につきましては、県が任されておる。そして、市のほうは、役割がございまして、例えばトイレ機能がございますので、トイレの清掃等日常の維持管理、それからインフォメーションの案内業務については市のほうですと。通常の日常的な管理は、市のほうがするというふうに役割がございます。

そして、その道の駅協議会というものがございまして、これは国交省関係の外郭団体というところが、九州地域の道の駅協議会というものを設置しておりますので、その協議会の関係は国関係と。そして、施設の本体の維持関係は県関係というふうに分かれておるといような状況がございまして。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、答弁する前に、道の駅がどういう形で管理、あるいはそれがなっておるかということでしたが、議員の皆さん方にも知っていただきたいということで課長に説明をさせました。

そういう状況であります。ですから今、平田議員がおっしゃるように十分、道の駅としてのいわゆる情報発信という意味で、機能を果たしてないということがあれば、県なり国なりと当然、私のほうから相談申し上げるといことになるだろうと思うし、そうやっていかなきゃならんというふうに思っています。

そういうことで御理解いただきたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） どうもそのあたりの話が、管理が県であるとか、実際は管理を任せられているとか、どこまで管理を任せられるのか、本当に機能的な、動かす部分が朝倉市であろうと思いますが、動かさないところに、情報が発信できないところに問題があると思います。これは、やっぱり道の駅を抱えている私どもの市から申し入れが大事であろうと思っていますので、ぜひ皆さん方が道の駅原鶴に来ると情報がとれるよっていうところで、やっていただきたいなということをお願いしたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

3点目、最後に、久大線を利用して、田主丸、吉井の町並み、うきはのつづらの里、棚田などへの観光客が訪れます。ここで、朝倉のPRをしなければいけないと私も思っています。JRへの働きかけはどのようにしてらっしゃいますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 情報の提供につきましては、もちろん市もいたしますけれども、観光協会もその役割があると。さまざまな情報発信の場所は、主体はございますけれども、JRに対して殊さら特別に情報発信をしたということについては、特別にはなかったんじゃないかというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） お尋ねしたのは、こういう趣旨からです。私どもが駅におり立ちますと、ここから私が目指すところまで、どうやっていくんであろうか、あるいはここに来たらちょっと時間があるんだけど、どっかいいところないかなというところで、そのあたりを見回します。そして、お迎えする玄関口でもあります。先ほど、冒頭に申しましたように、杷木のインターチェンジが「杷木・うきは」と書いてあるように、ここは吉井とかうきはの駅は、あるいは田主丸駅は、秋月に通じる道であるし、吉井は三連水車のほうに行ける道であるし、うきは、吉井は原鶴温泉にも行ける道である。通じてるよっていう私は看板、あるいはチラシ、何か表示するものが欲しいと思って、そういう目で見えてまいりました。

そうしましたら、やっぱり吉井駅もうきは駅も、もう朝倉のAの字も見当たりませんでした。そのあたりがよく言われる、私たちは宣伝が下手であるということではないかなと。もっともっと積極的にやっけていいと思っています。

J Rの駅が高速道路と同じように、勝手にポスターを置かない、張らせないとか、チラシを置かないということになっているかもしれませんが、最低限、道案内ぐらいは置いていただきたいなと思っています。朝倉市全体を網羅した観光地と道がどうつながってるかのこと1枚ぐらいは、置いていただけるような交渉をしていただきたいと思っています。

それで、そんな実態の中で、きのう12番議員の提案にもありましたけれども、おとといでしたかね、観光課に営業に回る職員を配置して、もっとリサーチして動きをつくる必要があると思います。そして、統一した観光PR、施策をとってほしいと思っています。古賀パーキングエリアまで行って、ずっとサービスエリア、パーキングエリアを通過して、杷木において、それから道の駅のうきは、くるめ、原鶴を見て、それからJ Rの2つ、3つの駅を見ることぐらい1日で終わります。もっともっとそういう動きをつくりながらリサーチして、どうすべきか人の動きがどうなっているのか、どうしたら人の動きができるかという、そういう職員の方をつくっていただきたいと思います。予算はわずかだろうと思いますから、部長お考えいかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（牟田芳高君） 御提言いただいておりますのを私なりに、頭の中で整理をいたしておりました。やはり交流人口の拡大というのが、新たな地域の活力の源だということと言われておりますのは、もう重々承知をいたしております。

そういう中で、既存の情報発信の考え方といいますですか、今まで我々、職員としてよかれと思ってやってきたことの範疇、これが今3つの視点で、高速道路である、国道386号道の駅、J R九大線の駅、こういう具体的な例で情報発信の状況、これの御提言をしていただきました。まさに、私どもも発想の転換をやはりやらないいけないと。既存の殻に閉じこもったような情報の発信といいますですか、観光の政策業務をやっていたんでは、と

てもではないなというような気持ちを持ったところでございます。

組織機構の中で、一つの宣伝の部署といいますですか、そういうものをつくれというような御提言でもございますけれども、既存の枠内の職員の中で、そういう意識を喚起しながら業務に携わっていかなくちゃいけないというようなことを改めて感じておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） ぜひよろしくをお願いします。

それともう一つは、利用者にとりましては、例えばインフォメーション、ほとめく館であり、道の駅であり、秋月の案内所であり、ここに何となく市とあうんの呼吸で動いてあるかという、統一した観光施策のもと職員が信頼し合って、意思の疎通ができていくかということも一つの問題であろうと思っています。ぜひ全市的な取り組みを行って、やっぱり外から見えたとお客さんが、ああここは観光に力を入れて、十分私たちをもてなしてもらってるなっていう思いができるような、頑張ってるなっていうような、そんな取り組みが欲しいと思っています。

最後、市長、お考えをぜひお聞かせ願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、平田議員からさまざまな御提言なりいただきました。いわゆる情報をいかにして発信して、どういう形でやっていくかという戦略という面が欠けておるといことだろうというふうに思います。その中で、私はやっぱり、もちろん今、部長のほうから答弁いたしましたように、既存の朝倉市役所の商工観光課という課の中で活動をさせている。

それには、課だけじゃ非常に厳しい面もございますんで、今あります観光協会というものもございます。あるいは原鶴の温泉組合がございます。そういったもろもろの団体といかに市が意思疎通をしながら、一つの方向性でまとまってやっていくかということが大事なんだろうというふうに思います。

改めてそのことについては、今後そういう形でいくように、努力をさせていただきたいというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） ありがとうございます。

もう一つは、ホームページの充実もあると思いますが、ホームページが本当に、そこに足を運ばなくても情報がとれる、チラシを20種類ぐらい朝倉市は持っています。けど、朝倉市の中に入ってこなければ、手にとれないような状況っていうのを今度、私も調査をしながら感じました。これが、よそにいてもとれる、ホームページが一番早いと思いますので、読み取れるホームページをつくっていただきたいと思います。

とにかく交通の便にも、自然にも、観光資源にも、人にも恵まれています、このまま

ではこの好条件も生かされないと思っています。危機感を感じております。冒頭に申しました、先ほど申しましたホームページの件。十日町市のホームページには、「選ばれて住み継がれるまち」と書いてあります。そんな取り組みをぜひお願いしたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。

2番目は、安心して出歩けるまちづくりについて。これは観光業にも共通することですが、トイレの件に関しまして、住民として観光客を迎えるために、この2つの視点から質問をします。

1番目は、質問の初日に15番議員が秋月地域の公衆トイレの質問をされました。朝倉市は、余りにもトイレことなどをなおざりにしているのではないかなと私も思っています。迷惑施設という言葉も聞きますが、トイレが一番くつろげるところでなければいけないと思っています。私もそうと思います。

観光客、交流人口をふやすため、だれでもが安心して出歩けるまちづくりには、必須の条件だと思います。都市計画あるいはまちづくり計画の中で、公衆トイレの設置に関して、朝倉市の地理的状況や人の動きからの検討を行っていますか、お尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 中心市街地の整備を行っている観点からの回答をさせていただきます。

現在、都市再生整備計画を策定して、中心市街地の整備を行っておりますが、この中でトイレの整備という計画は、現在持ち合わせておりませんが、プラン21計画の中におきましては、中央公園等の整備等を考えておりますが、その中でのトイレ検討等は現在持っておるところでございますが、1期で取り組みました北公園の整備の中には、トイレ整備を行っていないというところがございます。

エリア内には甘木鉄道駅関係、それからバスセンター等ございますわけですが、トイレ整備を事業計画として現在のところは持っておりません。ただし、さきの議会で、北公園のトイレ整備ができなかった状況説明の中で申しましたように、商店街の振興の中で、空き店舗を活用して、もやい広場の改装整備を行っております。これは11月には完成、整備が整っておりますが、その中には多目的なトイレとして、障がい者用トイレを含めた整備を行い、北公園との距離的關係が30メートル程度でございますので、その整備計画を持っていた関係で、北公園には整備をしなかったというのがございます。

ただ、議員おっしゃったように、人の動きを検討しながらトイレ配置をしておるかということについては、そのような観点からの整備計画を中心市街地においては持っていないところがございます。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 私の友達が、歩行困難になってまいりました。お連れ合いさんの話によると、よそにも連れていきたいけれども、障がい者が使えるトイレがないと、少な

いということを知りました。本当に、青春時代は甘木で過ごした友達なんですけど、多分来たかろうと思っています。

それで、朝倉市に、24時間利用できる車いすも入るトイレが幾つありますか。把握してありますか。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 全市的な部分については把握をしておりませんが、都市建設部のほうで所管をしております公園、施設等々の関係では、それぞれに現在、障がい者向けの24時間使えるトイレはございます。数については、一番新しいところでは、上秋月の広場に昨年設置をしましたトイレがございまして、現在、直接都市建設部の絡みじゃありませんけれども、秋月の公共駐車場の中に整備中の施設にもございます。数はちょっとはつきりわかりません。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 障害者福祉計画の中では、バリアフリーのまちづくりとありますが、この中で、そういう障がい者のトイレが幾つあるかのトイレマップを作成されたのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 福祉事務所長。

○福祉事務所長（三宅 明君） トイレマップにつきましては、作成をいたしておりません。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） ぜひ24時間利用できる障がい者のトイレ、もちろん24時間利用できる、トイレも少ないんですが、24時間利用できる車いすの人も利用できるトイレのマップをぜひつくっていただいて、都市計画の中に入れていただきたいと思っています。

時間がありませんから、この回答はちょっと省かせていただきますが、緊急な箇所としましては、バス停周辺でございます。きのうも問題になりました。ぜひここに設置すべきだと思います。

この周辺には4つの銀行があります。郵便局があります。朝高生が乗りおりいたします。福岡からの1時間ぐらいバスに乗っていらっしゃるお客さんもあります。ここに、私は住民として、そして観光客を迎えるために、ぜひ大きなトイレを町なかに欲しいと思っています。

遠野市にも行きました。遠野市の町並みの中に、立派なトイレがあります、一軒家があります。吉井にも、商店街の中に一軒家の二階建てのトイレがあります。見せるトイレです。お客様を迎えるトイレです。そういうのが、ちょっとしたパーキングとともに、きのうの議員の質問にもありましたが、あのあたりに、386号沿いに用地を買収してでも私は、やっぱり見せるトイレをして、お客様を十分受け入れますよ。そして、できれば観光案内所もそこに置いておくような、そんなエリアが必要だと思っています。

トイレについては、きのうの話もありましたが、ぜひぜひつくっていただきたい

と思いますが、お考えをお聞かせください。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） さきの議会なり、今回の議会でも、市長のほうからも答弁しましたように、また甘木の地元からも何度か西鉄のバス停、あの近辺、あるいはあの中に、そういった施設が欲しいというふうな要望をいただいております。経過につきましては省略しますが、そういったものも含めまして、西鉄さんと協議を行いたいと、現在行っておりますけど、継続していきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 先ほど話されましたもやい広場ですね。これは、本当に利用する者にとっては、あそこまでの距離がどれくらいあるか。車いすで実際に行ってみたらどれくらいあるか。そして、この間もやい広場に行きましたけど、5時以降は閉めてございました。本当に24時間利用できるトイレの検討をさらによろしく願いいたします。

じゃ、次に移ります。

甘木小学校の児童が利用している歩道橋について、維持、管理、実態について質問をいたします。体の不自由な小学1年生のお子さんと毎日この歩道橋を使っている保護者からの訴えでした。

現地へすぐ出向き、指摘された箇所を点検しました。階段には1段ずつ数字が書いてあったり、ローマ字が書いてあり、建設当初の思いや願いが伝わってくる歩道橋でございました。でも、指摘されたように、小学校1年生にとっては、手すりが高過ぎます。滑り止めが劣化して、危険でした。雨の日は特に危険だそうでございます。体が不自由であるがゆえにということでもございました。また、壁紙は何カ所も破れていました。子どもが大事にされている様子ではないなと思われました。古いものであり、強度も心配です。

この通りは、先ほども申し上げましたように、私たちが青春時代にわくわくして通った甘木市の街です。国道386号沿いをバスに乗って福岡から通いながら、その周りを見ていた景色もあります。甘木のバス停や道路わきの家並みは、本当に思い出のあるところです。きちんと整備されることを常々望んでいるのでありますが、この歩道橋については、どちらが維持管理をされるのでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 建設課長。

○建設課長（熊本正博君） 御指摘の歩道橋は、朝倉県土整備事務所維持係で管理しております。建設課においても、歩道橋の現地確認をしたところ、平田議員が申されたように、滑りどめの劣化や壁板の破損、さび等が見受けられました。また、児童や高齢者がつかまる手すり等が必要ではないかと考えられます。

このことから、朝倉市より朝倉県土整備事務所に対しまして、手すりの設置、滑りどめや壁板の補修、また歩道橋の耐震について、さらに歩道橋の明るい色での塗装の要望を12月1日付で提出をいたしたところでございます。以上です。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） 早速動いていただいてありがとうございました。県の朝倉県土事務所に行っていたということですが、そこでの回答をお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 建設課長。

○建設課長（熊本正博君） 朝倉県土のほうにまいりまして、その回答をいただいております。回答は、今年度は予算がないので、来年度検討をいたしますということでございました。建設課としましても、引き続き実現に向けて努力をしていきたいと思っております。

それから、いつでも敏速な対応を心掛けておりますので、問題が生じましたら情報提供をよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） ありがとうございます。一日も早く子どもたちが、通学が楽しくなるように、そして子どもたちが大事にされているまちだになっていくことがわかるような取り組みをお願いしたいと思います。

それでは、最後の質問に移ります。

障がいを持つ学童生徒が安心して入園入学できる幼稚園、保育所、小中学校、高校にするためにということで、教育委員会と健康課が連携して取り組んでいただきたいことありましたので、質問をいたします。

まず、私が現職のときに、杷木中学校区、比良松中学校区では、教職員やPTAの幼保小中高の連携をいたしておりました。最近の実態について、甘木中学校区、旧甘木市内を含めて、その実態についてお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 議員御質問の幼保小中高までの連携等の内容ということでございますが、教育委員会といたしましては、障がいを持つ持たないにかかわらず、教育上必要な情報交換を校長、教頭などの管理職、教務主任、担任等での連絡会を行っているところでございます。

まず、それぞれの取り組みの関係でございますが、まずは幼稚園、保育園等の保と小学校との連携につきましては、新1年生の子どもに関する連絡会を行っておりますし、運動会の旗とり前にも小学校から保育園、幼稚園を訪問し、園児の情報交換を行っているところでございます。

小学校と中学校の連携の関係でございますが、新年度入学する新中学1年生の子どもに関する連絡会、その他さまざまな機会、ブロック圏とか、特別支援教育研修会等を通じての情報交換等の連携も行っているところでございます。

中学校と高校との連携につきましては、高校在學生徒や入學生徒等に関する連絡会を行っております。また、必要に応じて校長、教頭等の管理職や進路指導担当教員などが情報交換及び連携を随時行っているという状況でございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 14番平田梯子議員。

○14番（平田梯子君） 十分な連携がされているということですが、それが保護者まで伝わっていない部分があるのかもしれませんが、保護者は就学前とか、小学校1年生に入るときですね、当該校の入学する小学校の先生方と直接お話し合いをしなければいけないとか、高校に入るのに発達障がいがあるんだけど、そんな子を受け入れているかという親御さん自身の不安を訴えられることがございます。それに関しまして、私どもはやっぱりみんな、個人の問題にせず、社会で受け入れて、十分学校教育も保障されるという状況をつくっていかなくてはいけないと思っております。

それで、2番の質問までお答えいただきましたので、3番目の就学前の幼児などの3歳児健診などの健康指導を行っている健康課の方と、教育委員会、教育課との連絡会は行われていますでしょうか。あるいは当該の原課の方は、その必要性を感じていらっしゃいますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 就学前の健診等での健康課といえますか、保健師等との連携はということですが、教育課と健康課、保健師との連絡会などにつきましては、小学校入学時点におきまして、これまでに御説明したとおりでございます、保健師のほうに障がいの状態などの説明を依頼することはございません。

幼稚園や保育園での生活状況などの情報により、そのほか専門家の御意見を取り入れながらの相談を行っているというような状況でございます。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（青笹祥子君） 今、教育部長が回答いたしましたように、幼児、就学前の健康指導を行っております保健師と教育委員会、それから学校、教育課で、小学校入学に際しての連絡会というのは行ってはおりません。その理由といたしましては、もし乳幼児健診の時点で、障がいの疑いがあるということがわかったといたしましても、個人情報との関係がございまして、乳幼児健診等で知り得た情報を保護者の許可がなく提供をすることができないという理由からでございます。ただし、連携という点では、乳幼児健診とか相談窓口、保護者の方がおいでになった場合、それから、あるいは保育所や幼稚園、学校から相談があった場合ですね、そういう場合には、保護者もいっしょに教育課、福祉事務所等関係機関と連携をとって、個別に協議をいたしております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 14番平田梯子議員。

○14番（平田梯子君） 個人情報の保護条例というのがありますが、これも私は使い方によって、子どもを育てる観点から、私は、これはぜひ必要であろうと思っております。親御さんも関係なさいますが、客観的に見られての情報は、非常に必要であろうと思っております。ぜひ御検討をお願いしたいと思います。

教育委員会のほうは、そのあたりに対して受け入れる体制っていうのはございますか。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 今言われました件につきましては、基本的には、保健福祉部長が答弁したとおりでございますが、個人情報保護条例の関係もございますが、今言われましたようにどこまで、この段階でできるっていうのはお答えできませんけれども、そういった状況を保健福祉部関係とも協議しながら、できる範囲につきましては、対応させていただきたいという考え方でございます。

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員。

○14番（平田悌子君） その点については、ぜひ前向きで取り組みをしていただきたいと思います。本当に、親御さんが全面に出なければいけないこのきつい状況を知っていただきたいと思っています。

それからもう一点ですが、ちょっと打ち合わせでもさせていただきましたが、大牟田市がサポートノートというのをつくっておきまして、この中に、子どもの状況、どんなことができるとかできないとか、ここが苦手であるとか、どこの病院にかかっているとか、子どもの情報を書き込んで、初めて出会う先生方に提示しながら、これを見ていただいて、理解していただく。一々初めて出会ったお子さんを先生がどう理解していくのか、その前に情報が入って、保護者の方と心をつないでいくというサポートノートでございます。ぜひこのような検討をしていただきたいと思います。これいかがお考えか、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 今言われました子どもさん方を支援するサポートノート等の配付の関係、できないかということでございますが、現状におきましては、保育園、幼稚園で作成されております保育所児童保育要録、また幼稚園児童指導要録等を入学先の小学校へ送付するという形になっておりますので、これに基づきまして対応をさせていただいているというような状況でございます。

また、これに基づきまして、それぞれの生徒さん方の個別教育支援計画等を策定いたしておきまして、こういった対応を現在させていただいておりますところですが、今御質問のサポートノート等につきましては、県のほうで取り組むというような形で聞き及んでいるところでございます。これにつきましては……。

（質問終了のベルが鳴る）

○議長（手嶋源五君） 14番平田悌子議員の質問は終わりました。

午後1時10分まで休憩いたします。

午後零時7分休憩